

朝鮮半島の安全保障に関するアーカイブズ

—米国所在のものを中心に—

道下徳成

(政策研究大学院大学)

本稿では、米国所在のものを中心に1960年代以降の朝鮮半島の安全保障に関するアーカイブズを紹介する。なお、米国所在のものといっても、近年では公文書館や公文書を扱う研究所のほとんどが検索機能の付いたウェブ上のデータベースを運用しており、その多くは現地に行かずとも、世界中どこでも閲覧可能である。本稿では、そうした研究上のアクセシビリティについても、判明している範囲内で紹介する。そして、最後に、韓国や旧共産圏諸国の外交史料の公開が進んだことによって、複数国のアーカイブズを利用して研究を行う環境が整ってきたことを指摘し、その事例を紹介する。

1. 米国のアーカイブズ紹介

(1) 米国立公文書館 (U.S. National Archives and Records Administration: NARA)

米国立公文書館で実際に文書を探す前に、まず目を通しておくべきものとして、米國務省が出版している米国外交関係文書シリーズ (*The Foreign Relations of the United States* series、以下 *FRUS*) <<http://www.state.gov/r/pa/ho/frus/index.htm>> がある。1960年代以降のものとしては、ケネディ政権期を対象とする Department of State, *FRUS, 1961-1963, China; Korea; Japan*, Vol. 22 <http://www.state.gov/www/about_state/history/frusXXII/index.html>、ジョンソン政権期を対象とする Department of State, *FRUS, 1964-1968, Korea* Vol. 29, Part 1, <http://www.state.gov/www/about_state/history/vol_xxix/index.html> があり、ニクソン・フォード政権期を対象とするものは現在編纂中である。*FRUS, 1961-1963* では、1960年代初

に米国政府内で韓国軍の兵力削減についての議論があり、兵力の削減は軍事的には問題ないが、政治的不安をもたらすために危険であるなどの議論がなされていた⁽¹⁾。また、韓国の安全に対する日本の見解が明確に示されたことで有名な、1961年の池田・ケネディ会談の様相も収録されている⁽²⁾。*FRUS, 1964-1968* には、1960年代後半に頻発した非武装地帯 (DMZ) における北朝鮮の米韓両軍に対する武力攻撃の分析と、それへの米韓側の対応が記録されている。近年、韓国映画「シルミド」によって広く知られるようになったように、韓国の特殊部隊が北朝鮮に対して秘密攻撃を行っていたことを米側が知っていたことも明らかになっている⁽³⁾。また、*FRUS, 1964-1968* には1968年1月に発生したプエブロ号事件に関する文書も収録されている。なお、プエブロ号事件に関する外交文書を広く収集して用いた研究としては Mitchell B. Lerner, *The Pueblo Incident: A Spy Ship and the Failure of American Foreign Policy* (Kansas, University Press of Kansas, 2002) があり、巻末には有用な文献目録が付されているが、残念ながら研究そのものは、米国の外交政策を批判することが目的化してしまっており、問題が多い。同じく外交文書を用いてプエブロ号事件と1969年に発生した EC-121 撃墜事件を軍事的側面から分析した研究として Richard A. Mobley, *Flash Point North Korea: The Pueblo and EC-121 Crises* (Annapolis: Naval Institute Press, 2003) がある。これらの研究は、米国立公文書館以外にも、テキサス州にあるジョンソン大統領図書・博物館 (The Lyndon Baines Johnson Library and Museum) やワシントン DC の海軍歴史センター (Navy Historical Center) などに所蔵されている史料を用いている。

FRUSの次に使用すべきはElectronic Telegrams, Central Foreign Policy Files, Record Group 59 (RG 59) Access to Archival Databases (ADD) <<http://aad.archives.gov/aad/series-list.jsp?cat=WR43>> である。ここには1973年から1975年までの国務省の電報が収録されており、電子的に検索も可能であり、極めて有用である(なお、ここに収録されている文書は、基本的に電子文書が原本であり、紙媒体の原本は存在しない)。「Korea」で検索すると1万件以上ヒットする。本タイトルには、1973年から1976年までに数次にわたって発生した、黄海における北朝鮮の艦艇による北方限界線(NLL)越線事案、いわゆる「西海事件」に関する文書が数多く収録されている。これによって、これまで米側の一次資料で裏付けることができなかった同事件の経緯が詳細に判明することになった。これらの作業を行ったのち、さらに詳細な研究を行う場合には、実際に外交史料の原本を探すことになるが、その場合にもRG 59, Central Filesから作業を始めるのが妥当である。なお、現在でも統合参謀本部(JCS)の軍事作戦関係の文書の多くは公開されていない。

次に、米国立公文書館でみるべきは、CIA Records Search Tool (CREST) である。本データベースはこれまでに秘密解除された米中央情報局(CIA)の文書が収録されており、ADDと同様、電子的に検索が可能である。ただ、本データベースはADDと異なり、インターネットを通じて情報を検索・ダウンロードすることはできず、National Archives at College Park (8601 Adelphi Road, College Park, MD 20740-6001)、いわゆるArchives IIのRoom 3000に設置されている端末を用いなければならない。また、2007年9月現在、本端末からは電子情報をダウンロードすることはできず、全て紙媒体にプリントアウトすることになる。本データベースには、1970年代前半に発生した西海事件の背景に関するCIAの研究や、76年のポプラ事件に際してのCIAの評価などの史料が所収されている。

なお、最近ではCIAも“The CAESAR, POLO, and ESAU Papers: Cold War Era Hard Target

Analysis of Soviet and Chinese Policy and Decision Making, 1953-1973” <<http://www.foia.cia.gov/cpe.asp>> と称して、ウェブ上に秘密解除文書を掲載しており、“Kim Il-Sung’s New Military Adventurism,” Intelligence Report, November 26, 1968, ESAU papers, no. 39 や Central Intelligence Agency, Center for the Study of Intelligence, “Looking for the Pueblo,” <<https://www.cia.gov/library/center-for-the-study-of-intelligence/csi-publications/books-and-monographs/a-12/finding-a-mission.html>> などの興味深い史料が入手できる。

(2) 米国家安全保障アーカイブ (National Security Archive: NSA)

米国家安全保障アーカイブは、米国の情報公開法である情報自由法(Freedom of Information Act: FOIA)を用いて公文書を収集し、それをもとにデータベースを構築し、あるいは文献集、研究書、論文などを出版している民間組織である。以前は中国や日米関係に関する文献を中心に収集していたが、近年、朝鮮半島関連の文献収集・分析にも力を入れている。その結果、2003年には“North Korea and Nuclear Weapons: The Declassified U.S. Record” (National Security Archive Electronic Briefing Book No. 87) <<http://www.gwu.edu/~nsarchiv/NSAEBB/NSAEBB87/>> を、2006年には“North Korea and the United States: Declassified Documents from the Bush I and Clinton Administrations” (National Security Archive Electronic Briefing Book No. 164) <<http://www.gwu.edu/~nsarchiv/NSAEBB/NSAEBB164/index.htm>> を、2006年には“North Korea’s Collapse? The End Is Near - Maybe” (National Security Archive Electronic Briefing Book No. 205) <<http://www.gwu.edu/~nsarchiv/NSAEBB/NSAEBB164/index.htm>> をそれぞれ編纂し、ウェブ上に主要文献のPDFファイルとともに公開している。また、現在も、日米韓の安全保障関係をテーマとする“The National Security Archive Korea Project”の編纂作業が進行中である。本プロジェクトの成果は

未発表であるが、これについての問い合わせはプロジェクト・リーダーであるロバート・ワンプラー (Robert A. Wampler, wampler@gwu.edu) が受け付けている。

また、ジョージ・ワシントン大学のギルマン図書館の7階にあるNSAの史料閲覧室には、ドン・オーバードーファー (Don Oberdorfer) が *The Two Koreas: A Contemporary History* (Reading, MA: Addison-Wesley, 1997) (邦訳は、ドン・オーバードーファー (菱木一美訳) 『二つのコリア—国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、1998年)の執筆にあたって使用した秘密解除文書や各種資料が、“Oberdorfer Korea Collection” (Box nos. 1-5) として所蔵されている。内容は米国の対北朝鮮政策、ポプラ事件、米陸軍第8軍の情報 (intelligence) 資料などである。

なお、米国家安全保障アーカイブは Digital National Security Archive (DNSA) <<http://nsarchive.chadwyck.com/marketing/index.jsp>> という、ウェブ上で使用可能な本格的なデータベースを構築している (本データベースへのアクセスは、日本では代理店を通じて購入する必要がある)。本データベースには、“U.S. Intelligence on Weapons of Mass Destruction: From World War II to Iraq” というコレクションがあるが、本史料を基にした研究である Jeffrey Richelson, *Spying on the Bomb: American Nuclear Intelligence from Nazi Germany to Iran and North Korea* (W.W. Norton, 2006) には、北朝鮮の核開発についての米国の情報活動についての記述がある。

(3) ノーティラス研究所 (The Nautilus Institute)

サンフランシスコに本部を置くノーティラス研究所は、アジアの安全保障を主たるテーマとして取り扱うシンクタンクであるが、活動の一環として “The FOIA/Global Disclosure Project” を進めている。これは米国のFOIAを用いてアジアの安全保障に関する重要文献を収集するとともに、これをウェブ上で公開し、広く情報を共有する一方、世界各国でも同様の史料を収集しようという試みである。本プロジェクトの成果として特に注

目されるのが軍事史 (Military Histories) のコレクションで、現在までに、1967-75年の米陸軍第8軍の年表 (Eighth US Army Chronology)、1973-84年の在韓米軍 / 米陸軍第8軍年次史概観 (U.S. Forces Korea/8th U.S. Army Annual Historical Review)、1960-91年の太平洋軍司令部史 (Commander in Chief US Pacific Command History) などを収集・公開している <<http://www.nautilus.org/foia/foiachrons.html>>。これらの史料には欠落部分や黒塗り部分も多いが、長い期間を対象とした史料が体系的にそろっているので極めて有用である。

それ以外にも、朝鮮半島における核使用の問題を検討した研究、“Vulnerability of North Korean Forces,” <<http://www.nautilus.org/foia/NKVulnerability.html>> や、“Weapons Support Detachment - Korea Nuclear Operations Standard Operation Procedures,” <<http://www.nautilus.org/foia/NOSOPROK.html>> や、ポプラ事件を扱った研究、“Murder at Panmunjom: The Role of Theatre Commander in Crisis Resolution,” <<http://www.nautilus.org/foia/panmunjom.html>>、カーターの在韓米軍撤退計画を扱った研究 “U.S. Ground Force Withdrawal From Korea: A Case Study in National Security Decision Making,” <<http://www.nautilus.org/foia/richwithdrawal.html>> などもウェブ上に公開されている。

(4) ウッドロー・ウィルソン国際学術センター (Woodrow Wilson International Center for Scholars)

ウッドロー・ウィルソン国際学術センターも朝鮮半島問題に関する外交史料の収集・分析・研究プロジェクトを行っているが、本研究所のプロジェクトの特徴は、旧共産圏の外交史料、特にソ連、東ドイツ、ハンガリー、ルーマニアなどの外交史料を収集し、それを英語に翻訳して公開したうえで、同史料を用いた研究活動を行っている点である。具体的には、“The North Korea International Documentation Project (NKIDP)” および “Cold War International History Project (CWIHP)” がある (但し、これらのプロジェクトは明確に区

別されるものではなく、お互いにオーバーラップし、補完し合う関係にある)。前者のNKIDPは、ウィルソン・センターが韓国の極東問題研究所および北韓大学院大学校との共同研究で進めているものであり、その成果は“DPRK in the Sino-Soviet Split”、“DPRK-GDR Relations,” “DPRK-PRC Relations”、“DPRK-Soviet Union Relations,” “North Korea’s Nuclear Program”、“Unification of Korea”などのテーマに分類されウェブ上で公開されている <http://www.wilsoncenter.org/index.cfm?fuseaction=topics.home&topic_id=230972>。後者のCWIHPの成果はCWIHP Bulletin (Issues I-16)のなかで紹介されており、“Weathering the Sino-Soviet Conflict: The GDR and North Korea, 1949-1989” (Issue 14/15)などが収録されている。また、本プロジェクトの研究成果であるSergey S. Radchenko, “The Soviet Union and the North Korean Seizure of the USS Pueblo: Evidence from Russian Archives,” Cold War International History Project, Working Paper #47 <http://www.wilsoncenter.org/topics/pubs/CWIHP_WP_47.pdf> は、プエブロ号事件の際のソ連と北朝鮮のやり取りのなかで、ソ連が朝鮮半島の紛争に巻き込まれることを懸念していたことや、北朝鮮が情報提供の見返りとして経済支援を要求したことなどを明らかにしている。また、Balazs Szalontai and Sergey Radchenko, “North Korea’s Efforts to Acquire Nuclear Technology and Nuclear Weapons: Evidence from Russian and Hungarian Archives,” Cold War International History Project, Working Paper #53 <http://www.wilsoncenter.org/topics/pubs/WP53_web_final.pdf> などのモノグラフも発表されている。

(5) Korea Information Service on Net (KISON)

KISONは1999年にワシントンDCに設立された情報サービス組織であるが、外交文書の収集および韓国語への翻訳も行っており、「韓国安保文書 (KSA, Korean Security Archives)」<<http://www.thekison.org/pages/kison-ksa.htm>> として

データベースを構築している⁽⁴⁾。この中でも、特に、Korea Information Service on Net (KISON), *DMZ Axe Incident (1976)*, Korean Security Archive, The Special Collections (Washington, D.C.: International Center, 2000) はポプラ事件に関する米国の重要文書を集成したものととして極めて有用である。

2. 複数国のアーカイブズを利用した研究の可能性

ここまで米国におけるアーカイブズを紹介してきたが、最後に、韓国の外交史料公開が進んだことにより、複数国のアーカイブズをクロスチェックしながら研究を行うための環境が整ってきたことを指摘しておきたい。米国の外交史料に加え、旧共産圏の外交史料の公開が進んできたことはすでに指摘したが、1994年から韓国でも外交史料が徐々に公開されるようになり、2008年6月現在で1977年までの外交史料が公開されている。これによって、米国、韓国、旧共産圏諸国の外交史料を見比べてクロスチェックしながら研究を進めることができるようになった。

特にプエブロ号事件については、米国の史料としては*FRUS, 1964-1968*および関連の米国立公文書館所蔵史料、ジョンソン大統領図書館所蔵史料などがあり、韓国の史料としては外交史料館所蔵の「1/21 武装共匪浸透およびプエブロ号拉北事件」⁽⁵⁾があり、旧共産圏諸国の史料としてはウィルソン・センターのコレクションである“USS Pueblo Crisis”⁽⁶⁾があり、3種類の文書をクロスチェックできるようになった。また、1970年代の「西海事件」についても、米国の文献に加え、韓国の外交史料館で「北韓西海岸5個島嶼接続水域侵犯事件 1973.11.19-12.19」⁽⁷⁾が公開されており、両国のアーカイブズをクロスチェックすることができるようになっている。なお、ポプラ事件についても韓国の外交史料館で「北韓の板門店集団蛮行事件 1976.8.18」⁽⁸⁾が公開されたが、最も重要な文書が含まれていると見られる第1巻が公開されていないため、これについては、もうしばらく史料の公開を待つ必要がある。

- (1) "253. Special National Intelligence Estimate," SNIE 42-62, Washington, April 4, 1962; and "259. Memorandum for the Record," Washington, May 4, 1962.
- (2) "232. Memorandum of Conversation," Washington, June 20, 1961.
- (3) "Armed Incidents Along the Korean DMZ," in *FRUS, 1964-1968*, p. 209; and Notes of the President's Meeting With Cyrus R. Vance, Washington, February 15, 1968, in *FRUS, 1964-1968*, pp. 380-382; and "The Objectives of My Mission," Memorandum From Cyrus R. Vance to President Johnson, Washington, February 20, 1968 in *FRUS, 1964-1968*, pp. 384-391.
- (4) 韓国の安全保障に関する米国の秘密解除文書を韓国語に翻訳・整理したものとして次がある. 이흥환『미 비밀문서로 본 한국 현대사 35 장면』서울, 도서출판 삼인, 2002.
- (5) "1.21 무장공비침투 및 Pueblo 호 납북사건," 전 8 권, 일련번호 2662-69, 분류번호 729.55.
- (6) URL は次の通り. <http://wilsoncenter.org/index.cfm?topic_id=1409&fuseaction=va2.browse&sort=Collection&item=USS%20Pueblo%20Crisis>.
- (7) "북한 서해안 5개 도서 접속수역 침범사건, 1973. 11.19-12.19," 전 2 권, 일련번호 6128-29, 분류번호 729.55, 외교사료관; "북한의 도발사건, 1973-75," 일련번호 8359 (11265), 분류번호 729.55, 외교사료관.
- (8) "북한의 판문점 집단 만행사건, 1976.8.18," 전 6 권, 일련번호 9435, 분류번호 729.55, 외교사료관.